

平素は格別のご贔屓にあずかり、誠にありがとうございます。  
 例年より短い梅雨が明け、眩しい太陽の陽射しと共に夏がやってきました。  
 新型コロナウイルスだけでなく、この時期特有の感染症や熱中症対策にも留意が必要な季節ですね。  
 前回ご好評いただいたので、今回も事例紹介をさせていただきます！  
 今回は、『バルーンカテーテルを留置しご自宅へ退院された方のご家族への指導』をご紹介します。

ホームページも開設しております。  
 『ネットワーク訪問ナースステーション』で検索すると、一番上に出てきますので、  
 是非覗きにきてくださると嬉しいです👁️  
 今後ともよろしくお願い申し上げます。



B様。80歳代後半男性。現病歴：前立腺肥大症、膀胱癌。

前立腺肥大症の既往歴があり通院していたが、ある日、突然尿が出なくなり病院に入院されることとなった。尿閉と診断されバルーンカテーテルを留置し、膀胱癌は手術せず自宅へ戻る事とした。病院の看護師が主介護者である奥様にバルーンカテーテルやウロバッグの管理について指導すると、「大丈夫そうです。自宅で管理できると思います。」とお話されて、訪問看護利用は見送りとなった。退院されてから2週間後、奥様からケアマネージャーに連絡があり、「なんだか尿が濁っているように感じる。病院に行った方がいいかしら？」とご相談があった為、状態を見て欲しいと訪問ナースステーションに連絡が入った。同行訪問したところ、奥様から、「病院でしっかり教えてもらったけれど、自宅となると病院みたいに何でも物品が揃っているわけじゃないし、ベッドも普通のベッドだからどうしたらいいか分からなくて足元に置いていた。それに、いつもウォシュレットで洗っているって言ってたので、気にしてなかった。」とお話あり、陰部を清潔に保清することができていない事と、自宅での管理がしっかりとできていない事による尿路感染が疑われ、受診した。主治医から「訪問看護師に来て貰い、介護方法を教えて貰い、相談できたら安心でしょう。」と言われた。奥様は理解力や介護力は高いため、清潔保持やウロバッグの管理等を週1回で2か月程度訪問看護の介入と福祉ベッドを設置し、その後家族管理が十分であれば訪問看護を終了する予定となった。奥様の習得度を確かめながら、トイレでの陰部の洗い方や、ウロバッグの尿の廃棄方法等基本的な管理方法の指導を行い、2か月後、ウロバッグの管理については問題なく行えるようになった。奥様は、「不安なことがあったらすぐに看護師さんに訊けるのがとても有難いから、そのまま継続でお願いします。」とお話あったため、継続して体調確認、医療相談の為訪問することとなった。(安田)

神経難病、認知症、精神疾患、がんターミナル、骨折後リハビリ等を特に得意としております。  
 ご相談や訪問看護お試しサービスを無料で行っております。  
 お気軽にお問い合わせください！



24時間  
対応

ターミナルケア・お看取りも  
対応いたします

訪問地域

その他の地域もぜひご相談ください！

世田谷区

松原・代田・代沢・豪徳寺・梅ヶ丘・宮坂・経堂・赤堤

杉並区

永福・和泉・浜田山・下高井戸



〒156-0043  
 東京都世田谷区松原3-27-38  
 あとりえどまりおん2C

TEL: 03-6379-0683  
 FAX: 03-6379-0684

